

3. 41系統から60系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
41	鶴見駅西口	東寺尾5丁目、内路、菊名駅前、大倉山駅前、太尾西住宅、新羽駅、新開橋	川向町折返場	港北		C	深夜バス運行 太尾西住宅経由 時間帯によっては頻度B
	鶴見駅西口	東寺尾5丁目、内路、菊名駅前、港北警察署前	新横浜駅前	港北		B	深夜バス運行(鶴見駅西口→港北車庫前)
	新横浜駅前	大倉山駅前、下町会館前、新羽駅、梅田橋	中山駅北口	港北		C	下町会館前経由
	新横浜駅前	大倉山駅前、太尾西住宅、新羽駅	川向町折返場	港北		RC	太尾西住宅経由 朝と夜間のみ運行
	新横浜駅前	大倉山駅前、太尾西住宅、新羽駅、梅田橋	ららぽーと横浜	港北		C	太尾西住宅経由 時間帯によっては頻度B
41系統解説	<p>9系統と同様に全線を通して走るバスはありません。以前は一日一往復ではありますが全線(鶴見駅西口～中山駅前)を走るバスがありました。この路線は最終的には緑営業所の担当でした。多くの子系統がありましたが路線再編や新系統への移管などで整理されました。トータルの運行頻度は鶴見駅西口・～大豆戸交差点がA、新横浜駅前～大豆戸交差点～藪根がB、藪根以遠がCになるかと思えます。</p> <p>冒頭の記述通り、長らく港北営業所と緑営業所の共担路線となっていました。2008年2月に緑営業所が担当を外れ、現在では港北営業所の単独所管路線となっています。</p> <p>2013年3月から中山駅前の発着場所が南口から北口に変更になりました。</p>						
42							
42系統解説	<p>18系統と同様に鶴見駅東口を途中経由地とする路線でした。一の瀬から末吉橋、三ッ池道を経て鶴見駅へ出ます。ここまでは13系統と同じルートです。そこから平日日中は鶴見区役所を通り、産業道路との交差点である汐入町2丁目が終点となります。2007年3月の路線改変で廃止となりました。</p>						
43							
43系統解説	<p>43系統は大別すると</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山駅北口～市が尾駅～桐蔭学園 ・中山駅北口～市が尾駅～桐蔭学園入口～鴨志田団地～寺家町(循環) ・市が尾駅～桐蔭学園入口～鴨志田団地～こどもの国入口～奈良北団地折返場 <p>からなる路線(子系統はそれよりも多数ありましたが)、2006年3月16日に東急バスへ移譲(運行事業者の変更)が行われ、市営バスとしては廃止となりました。これにより、市が尾駅より西側(市が尾駅～桐蔭学園、鴨志田団地、寺家町～すみよし台)への市営バス路線は消滅しました。</p> <p>元々は中山駅から桐蔭学園の先、横浜市と川崎市の境になる鉄町までの運行でした。</p>						
44	横浜駅西口	三ッ沢総合グランド入口、東泉寺前、八反橋、天屋	横浜駅西口	浅間町	相鉄	B	共通定期券取扱区間は横浜駅西口～東泉寺前間
44系統解説	<p>横浜駅西口から出る循環バスの一つです。もっとも、循環といっても途中の三枚町から八反橋を中心にしゃもじ状に循環する循環線です。午前と午後で循環方向が違います。横浜駅西口から岡野町、三ッ沢総合グランド入口、片倉町入口、三枚町を経て天屋、八反橋、東泉寺を回り、三枚町に戻って来て同じ経路に横浜駅西口に戻ります。原則として循環線ですが、終バス(とその1本前)は八反橋止まりとなります。</p>						

3. 41系統から60系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
45	京急ニュータウン	日限山、上永谷駅、天谷、清水橋、港南台駅前	洋光台駅前	港南		C	上永谷駅発循環線を含めて上永谷駅～みやのくぼ間は頻度A みやのくぼ～港南台駅前間は頻度B 港南台駅前～洋光台駅前間は頻度C
	上永谷駅前	天谷、清水橋、港南台駅前	洋光台駅前	港南		B	
	野庭中央公園	天谷、清水橋、港南台駅前	洋光台駅前	港南		IC	
	上永谷駅	ゆりの木通り、野庭団地センター前、野庭中央公園、すずかけ通	上永谷駅	港南		C →	一方循環
	上永谷駅	ゆりの木通り、すずかけ通	野庭中央公園	港南		IC	
	平戸	上永谷駅前、丸山台、清水橋	港南台駅	港南		MC	平日朝のみ1往復運行
45系統解説	上永谷駅、野庭団地を中心とする路線バスです。洋光台駅から乗ると南公園を通り、港南台駅前、清水橋を通ります。その後は野庭団地を抜けて上永谷駅前に行きます。上永谷駅でUターンしたバスは日限山(ひぎりやま)を通り、京急ニュータウンに行きます。平日の朝方1往復のみ、港南台駅前から丸山台、上永谷駅前を通り平戸に抜けるバスがあります。以前は芹ヶ谷まで足を伸ばしていましたが、芹ヶ谷(現在は芹が谷)地区の路線移譲に伴い平戸折返しとなりました。						
46							
46系統解説	東神奈川駅(東口)からまっすぐ海の方に向かうバス路線です。途中で3つバス停がありますが、途中で乗り降りする人はまずいません。このバスの最大の特徴は終点にあります。瑞穂(みずほ)棧橋という場所です。その周辺を瑞穂ふ頭といいますが、ここは米軍のふ頭です。中に入るにはパス及び許可書が必要になります。なお、瑞穂棧橋の先も路線があるようで、資料によっては瑞穂岸壁と言うところが終点になっているものがあります。この路線、米軍基地内を走ることから年に一回、ハワイの米軍司令部に対して交通局長名で基地内の走行許可申請を行っているそうです。現在、東神奈川駅からは平日朝2本のみ運行となっています。瑞穂棧橋からは2007年3月までは平日朝2本と夕1本の運行になっていましたが、2007年3月に午後便を間合いで担当する122系統が廃止になったため午後の運行が廃止となりました。 2013年3月に48系統と統合され、廃止となりました(千若町2丁目～瑞穂岸壁間は廃止)。						
47							
47系統解説	以前は山下ふ頭から途中の水道道までを28系統と併走する路線で宮田町、保土ヶ谷駅西口まで結ぶ路線でした。28系統の出入庫線という色合いの濃い路線でしたが、28系統の再編に伴いメイン路線に格上げ(?)されました。再編五皿に改変が行われ、山下ふ頭へは平日の朝夕、土曜の朝のみとなり、その他の時間帯は桜木町駅前での折返しとなりました(このため、時間帯によっては桜木町駅前の乗り場が異なりました)。それでも不採算体質から脱却できず、2007年1月にまず桜木町駅前～山下ふ頭間が廃止され、更に2007年3月に残った全線が廃止となりました。廃止後は57系統と統合され暫定運行の292系統が当時のルートの2/3程度をカバーして運行されています。						

3. 41系統から60系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
48	横浜駅前	中央市場前、コットンハーバー、中央市場前、神奈川公園前	横浜駅前	鶴見		C	平日朝方の運行頻度はA、土休日 日中の運行頻度はB
	横浜駅前	中央市場前、コットンハーバー、千若町1丁目	東神奈川駅前	鶴見		AC	平日の朝方のみ2往復運行
48系統 解説	46系統同様、運行距離の短い路線です。2008年11月までは中央市場発着で途中のバス停は「神奈川公園前」しかありませんでした。2008年12月の変更でコットンハーバー線（こちらにも内部的には48系統でした）と統合され、コットンハーバー発着となりました。コットンハーバー発着後は朝方から18時台までが中央市場経由、それ以降が直行便で運行されていましたが、2009年6月より全便中央市場経由となりました。中央市場～コットンハーバー間は新たにできた臨港幹線道路を走ります。						
49	横浜駅前	(臨時便・急行)桜木町駅前	大棧橋	浅間町 本牧		C	
49系統 解説	以前は鶴見駅西口から花月園競輪場を結ぶ臨時バスがこの系統を名乗っていましたが、数年前くらいから大棧橋への船舶乗船客(無料)送迎バスとなりました。常に運行されているわけではなく、主要な船舶が到着したときだけの運行のようです。						
50	横浜駅西口	反町、栗田谷、神大寺入口、三ツ沢西町、三ツ沢 グランド	横浜駅西口	浅間町 保土ヶ谷		C	一方循環 横浜駅西口～神大寺入口間は頻度 B 深夜バス運行
	横浜駅西口	青木橋、反町、栗田谷	神大寺入口	浅間町 保土ヶ谷		B	
50系統 解説	35系統の逆回りの循環バスです。横浜駅西口を出て、青木橋から反町へ。反町を左折し、東横線の反町駅前を通り、栗田谷に入ります。三ツ沢墓地のすぐ脇が神大寺入口。半数以上の便がここで終点となり、折り返しは35系統となり横浜駅西口に帰ります。循環便は直進し、片倉町入口、三ツ沢グランド、浅間下、岡野町を経て横浜駅西口に戻ります。ちなみに片倉町入口を出るとこの系統と(35系統も同様になります)は国道1号線をまたぐ陸橋を渡らず、交差点でクロスし、陸橋部分にある峰沢入口、三ツ沢西町の両バス停に停車します。						
51	上大岡駅前	港南区総合庁舎前、日野橋、すずかけ通	野庭中央公園	港南		A	深夜バス運行
51系統 解説	野庭団地と上大岡駅を結ぶドル箱路線です。日中でも頻度よく運行されています。路線は上大岡駅を出て、港南区総合庁舎、日野公園墓地を通り、日野中央公園入口の前で鎌倉街道から別れます。野庭団地の中をぐるりと回り、野庭団地センターの方から野庭中央公園に入ります。						
52	上大岡駅前	港南区総合庁舎前、日野橋、野庭団地東口	野庭中央公園	港南		C	平日の朝方のみ運行 土休日、年末年始は運休
52系統 解説	51系統の子系統的な存在の路線です。野庭団地の中を通らず野庭中央公園から野庭団地東口を経由して上大岡駅に向かいます。51系統は野庭団地を回ってくるため、公務員住宅前付近の乗客が乗り切れない場合もあるようです。その救済も兼ねた路線となっているようです。野庭営業所時代は203系統の出入り便としての設定が多かったですが、203系統が移譲対象路線となったため2005年7月のダイヤ改正で大幅に減便され、平日と休日の朝方みの運行となり土曜日は運休となりました。また、休日は1往復のみとなりました(2012年6月より平日の朝方みの運行に変更)。野庭営業所は廃止されましたがその後もダイヤはほぼそのままの野庭中央公園発着となっています。						

3. 41系統から60系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
53	横浜駅西口	洪福寺、保土ヶ谷駅東口、北永田、児童遊園地	平和台折返場	浅間町		DC	日中から夕方にかけて運行
	保土ヶ谷駅東口	北永田、児童遊園地、狩場町	平和台折返場	浅間町		B	平日は終日運行あり 土休日は朝方、夜間のみ運行 (頻度は平日の横浜駅西口発着便を含めたもので、土休日は朝夕B、日中C)
53系統解説	相鉄バス旭3系統(横浜駅西口・保土ヶ谷駅東口～児童遊園地)を引き継ぐ形で平成2003年11月1日から運行を開始しました。新路線は児童遊園地の先、平和台折返場までの運行となります。運行スタイルは相鉄バスを継承して朝と夜は保土ヶ谷駅東口発着で、横浜駅西口には日中から夕方にかけて乗り入れるようになっています。横浜駅西口は発着とも第2バスターミナルとなっており、横浜駅西口発は北幸2丁目バス停を通過して楠町に出ます(横浜駅西口行は楠町から横浜駅西口第2バスターミナルへ直行し、鶴屋町3丁目は経由しません)。 以前は上大岡駅から上永谷駅、平戸を経て戸塚駅に行く路線が53系統でしたが、こちらは平成10年1月に廃止になりました。						
54	根岸駅前	日赤病院前、本牧市民公園前	本牧車庫前	本牧		B	
	根岸駅前	(急行)・日産工場前、本牧ポートハイツ前、本牧市民公園前	根岸駅前	本牧		MC →	平日の朝のみ運行 根岸駅前→日産工場前間は根岸駅前 前行、本牧車庫前行、日産工場前 行を合わせて頻度A
	根岸駅前	(急行)・日産工場前、本牧ポートハイツ前	本牧車庫前	本牧		MC →	
	根岸駅前	(急行)・本牧市民公園前	日産工場前	本牧		MA →	平日の朝夕のみ運行
	根岸駅前	本牧市民公園前、日産工場前、本牧ポートハイツ前	本牧車庫前	本牧		C	本牧車庫前行は平日、土曜の朝1 本、根岸駅前行は平日の夕1本運行 休日は運休
54系統解説	本牧ふ頭周辺を代表する路線でしたが、2007年3月の路線再編により根岸駅～本牧車庫前間がメイン路線となりました。この他に平日の朝夕のみ運行される日産工場への急行バスがあります。路線再編前は根岸駅前から本牧ポートハイツ、小港、元町、日本大通り駅県庁前を経由する桜木町駅前行、根岸駅前から本牧ふ頭内を経て和田山口方面へ出る循環線、根岸駅前から海づり棧橋へ向かう路線がありました。再編後の本牧ふ頭地区は97系統がメイン路線になったような印象を受けます。						

3. 41系統から60系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
55	青葉台駅	十日市場駅、中丸入口、長津田南	若葉台中央	若葉台		C	
	ヴィンテージ前	長津田南、中丸入口、十日市場駅	青葉台駅	若葉台		C ←	始発から9時前までのヴィンテージ前発のみ 十日市場駅止は平日のみ運行
55系統 解説	かつては桜木町駅から市電保存館へ行く21系統のグループの1つでしたが、21系統に統合され、系統番号は青葉台ー若葉台地区に再利用されました。青葉台駅を出たバスは青葉台営業所、十日市場駅を経由し、若葉台方面に進みます。ひたすら直進し、長津田南で左折し、若葉台中央へ向かいます。元々は若葉台中央ではなく若葉台営業所近くに「旭中央病院」という別の終点バス停を設け、青葉台方面からのバスのみ「旭中央病院」が終点となっていました。沿線に北部斎場があり、そこへの足でもあることから若葉台中央への乗り入れ要請(三ツ境、鶴ヶ峰方面からの乗り換えの便がよくなるため)が強く、2006年3月18日から起終点が若葉台中央に変更となりました。なお、青葉台方面行きは始発から9時前に限り若葉台中央の一つ先のヴィンテージ前が始発となります。ヴィンテージ(「ヴィンテージ・ヴィラ横浜」という高齢者を対象としたマンションだそうです)からの着席を確保させるためだとか。若葉台中央行は終日若葉台中央が終点となっています。						
56	鴨居駅前	鴨居町、竹山団地中央	竹山団地折返場	緑	神奈中	A	深夜バス運行 頻度は神奈中を含む
56系統 解説	鴨居駅と竹山団地を結ぶ短いながらも乗客の多い路線です。鴨居駅の狭いバスターミナルを出て、梅の木方向に進みます。途中の竹山団地入口で右折し、団地内に入ります。終点は竹山団地折返場です。通常便は全てここで折り返しますが、深夜バスだけはこの先の道を進み、笹山団地(一般の56系統としては走っていない区間です)に向かいます。						
57							
57系統 解説	古くは横浜駅東口(古くは西口発もあったようです)から御所山、伊勢佐木町を経由し、山下ふ頭入口を結ぶ路線(担当:本牧)でした。その後、保土ヶ谷車庫発になり、保土ヶ谷車庫から浜松町、藤棚、御所山経由の山下ふ頭行き(担当:保土ヶ谷、朝山下ふ頭行き2本、夕方保土ヶ谷車庫行き2本)となりました。さらに、保土ヶ谷車庫からの岡野町、西区総合庁舎入口、伊勢佐木町経由吉田橋循環線が出来ました(担当:保土ヶ谷)。それが平成10年に浅間町車庫発のパシフィコ横浜行きとなり、担当も浅間町営業所に変更となって運行されていましたが不採算路線であるため再編対象となり、57系統としては桜木町駅前～パシフィコ横浜間の運行となりました。廃止となった浅間町車庫前～桜木町駅前間は47系統と統合の上暫定運行系統292系統が引き継ぎました。2009年4月に292系統と統合して浅間町車庫前～桜木町駅前～パシフィコ横浜間の運行となりました。系統番号は292系統を継承したため57系統は消滅となりました。						

3. 41系統から60系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
58	磯子車庫前	根岸駅前、和田山口、見晴橋、日本大通り駅県庁前、桜木町駅前	横浜駅前	磯子本牧		B	
	磯子車庫前	根岸駅前、和田山口、みなと赤十字病院、見晴橋、日本大通り駅県庁前、桜木町駅前	横浜駅前	磯子本牧		DC	平日日中のみ運行
58系統 解説	<p>8系統と同様に歴史のある路線です。かつて、路面電車は長らく間門～八幡橋間が空白路線となっていました。また、本牧通りより海側には路線がなく、その区間を埋める形で運行されたのが現在の58系統に当たる路線です。横浜駅から桜木町駅、日本大通り駅県庁前、中華街入口、みなと赤十字病院入口、小港、本牧、間門、根岸駅前、八幡橋、芦名橋、磯子駅前を経て磯子車庫前まで行きます。市内の観光地を結ぶ路線の一つでもあります。2005年4月から磯子車庫前～みなと赤十字病院間の区間便が平日日中に限り運行を開始しました。</p> <p>また、2011年9月5日からは横浜駅前発みなと赤十字病院行が平日の朝のみ1本運行されるようになりました。</p> <p>2011年12月5日から再度の再編が実施され、平日に運行されていたみなと赤十字病院行は廃止となり、その代わりとして平日日中のみですが磯子車庫前からみなと赤十字病院を経由して横浜駅前へ向かう便が設定されました。</p>						
59	横浜駅西口	東神奈川駅西口、西大口、菊名駅前	綱島駅前	浅間町		C	
59系統 解説	<p>かつては東急バスと相互乗り入れをしていた路線です。以前は港北営業所の所管で、東急バス、市営バスともいすゞ車の走る路線でした。また、綱島駅から港北車庫、新横浜駅への出入り線や横浜駅西口から新横浜駅を結ぶ路線(旧、80系統)とバラエティーに富んだ路線だったのですが、現在では担当が浅間町となり、綱島駅～新横浜駅線及び旧80系統が廃止となり、大変シンプルな路線となりました。横浜駅西口を出て、東神奈川駅西口を経て浦島丘で左折。綱島街道に入り、西大口、港北小学校、菊名駅前、港北区総合庁舎前を経由し、大綱橋を渡り綱島駅前に着きます。</p>						
60							
60系統 解説	<p>古くは磯子駅から磯子台、浜小学校前、笹塚、弘明寺、保土ヶ谷駅東口を経由して藤棚を結ぶ路線でした。路線は保土ヶ谷駅東口発着に短縮された後、再度の変更で蒔田駅前、南区役所前を循環する路線となりました。磯子駅を出て芦名橋方向に向かうバスは多くは駅前の交差点で左折し、国道16号線に入るのですが、この系統のみ産業道路を直進していました(以前は他にもありました)。芦名橋では国道16号線を横切りかつて美空ひばりの御殿のあった磯子台へ向かう急坂を登って行きました。不採算路線で廃止対象となりましたが、補助金制度対象路線となり2007年4月からは神奈中バスによる運行となりました。</p>						